

添付資料 7-2 映像コンテンツ 概要

映像コンテンツ 概要

福岡市の歴史ストーリー 3編

1 交流をエンジンとして疾走する2000年都市

金印発見の地・志賀島を本拠地とする古代の海人族・阿曇氏は、風と海流を読み古代の交流を支えた。中世になると、留学僧や博多商人たちが人・もの・情報の交流を担った。古代以来、博多湾岸は交流のゲートウェイであり、今は世界有数の利便性を誇る空港や博多港を拠点に交流が広がる。

2 新たな価値を生み出すスタートアップ都市

鴻臚館跡からはイスラム陶器が、中世博多の港湾都市からは硫黄が発見された。博多から輸出された硫黄は火薬の原料となり、世界史の激動を生み出していく。グローバルに活躍する博多商人とともに最先端の仏教文化に触れた留学僧は、中世スタートアップの地・博多を起点に全国へ新しい文化・思想・ものを広めていった。今、同じ地に海外からの起業家や投資が呼び込まれ、新たな価値が生み出されている。

3 未曾有の脅威を克服してきたレジリエンス

交流と繁栄には負の側面もある。モンゴルの襲来、戦国武将の博多焼き討ち、慢性的な水不足と大渇水…。しかし、海岸線に防塁を築き、焦土からまちを復興させ、海水淡水化の優れた水システムを導入するなど、人びとはイノベーションにより未曾有の困難を克服しつづけてきた。レジリエンスに富む都市経営の技術が、今、アジア各地に広がっていく。

代表的歴史資源の魅力発信 3編

4 国宝金印「漢委奴国王」

5 国史跡 鴻臚館跡

6 国史跡 元寇防塁